

5.2 七久保・柳谷戸・福泉西部

谷戸の位置及び昭和 20 年代と現在との比較

七久保谷戸は、現在の福泉バス停付近から六国見山方面へ南に延びる谷戸であり、昭和 20 年代は、ほとんどが棚田であった。現在、谷戸の大半は今泉小学校の敷地となっている。小学校敷地を平坦にするため、谷戸の入口側はかなりかさ上げし、逆に奥側は土地を削っている。その奥に住宅地と今泉公園がある。七久保谷戸を形作る東側の尾根が、ほぼ今泉小学校傍の今泉 2 丁目住宅地に登る道と重なる。小学校以外には、谷戸の入口付近に、消防署分署、町内会会館、特養ホーム等、一般住宅などがある。

七久保谷戸の東側の尾根を越えた山中にも畑地があった。現在は今泉 2 丁目住宅地の一部となっている。全体に宅地造成により、谷戸の痕跡を残すものはわずかである。

柳谷戸は、現在の今泉 2 丁目西部から今泉台 1 丁目にかけてあった谷戸である。柳谷戸の由来は谷戸の入口に柳の木があったからとされている。(今泉町内会ホームページより) 昭和 20 年代は現在の中町バス停から現在の今泉 2 丁目 15 番地あたりを谷戸の入口とし、六国見山の尾根の下に至る谷戸であった。谷戸全体が棚田であったようである。現在は谷戸全体が埋め立てられて住宅地となり、その姿は激変している。昭和 20 年代当時、砂押川の街道から柳谷戸西側の縁を行く道と東側の尾根に登る道があったが、西側の道は柳谷戸に入るまでの間のみ柳谷戸からの小川と共に残されており、東側の道も埋め立てられた上にできた住宅地までは残されている。

福泉西部は砂押川沿いの平地及び東北側の丘陵地帯である。川沿いの平地は、昭和 20 年代は農地中心に住宅も点在していたが、現在はわずかに農地が残る程度でバス道路周辺に住宅地となっている。丘陵部には谷戸らしいものはほとんどない。今泉地区は岩瀬地区と比べて砂押川河岸部の耕地が狭い。その代わり、砂押川北部の丘陵に畑地が昭和 20 年代から現在に至るまで多く存在する。

七久保谷戸 調査記録 平成 26 年 4 月 17 日

今泉地区の福泉バス停に集合して、七久保谷戸の跡を探る。七久保谷戸と隣接する柳谷戸は現在宅地化され、東側と中央部は 4 段、西側は 3 段の雛壇状になっている。最下段は宅地造成の対象外で農地、住宅、商業施設が混在している。第 2 段から第 4 段は宅地造成された住宅地である。

今泉橋から谷戸の跡に入っていく。橋のたもとに、砂押川に合流している比較的大きな排水口があり、七久保谷戸の水流の出口であると推定される(写真 1)。今泉橋から消防署分署・町内会館の傍を行くと、正面に特別養護老人ホームがある。これらの建物のある場所は、昭和 29 年当時は市営住宅があったところである。特別養護老人ホームの横に、水はほとんど流れていないが水路がある(写真 2)。これは七久保谷戸の水路の跡と思われる。また、右手の岩瀬中学のグラウンド近くから以前の七久保谷戸の跡を思わせる山道があるが、水路とともに遡ると今泉小学校の敷地で遮られているため、この方向には向かわず、今泉小学校の左手の坂を登って雛壇の第 2 段に向かう。

坂の正面方向に雛壇の第3段にある送電線鉄塔が見え、昭和29年当時の地図と照合すると、その送電線鉄塔が尾根の上にあることから、この坂道が七久保谷戸の東側の尾根に相当することがわかる。この坂の左側は低くなっていて低湿地であったろうと思われる(写真4)。七久保谷戸地域の大半は、現在今泉小学校敷地となっており、小学校敷地内での高度差を小さくするため、谷戸の入口付近では高く盛り土され(写真3)、奥の方は谷戸が削られている(写真5)。これらの状況を地図と照合しながら確認していると、今泉橋の袂にお住いのYさんという人に声をかけられたので、尋ねてみると、ほぼ推測どおりであったことを確認する。なお、途中の電柱を見ると、標識にこの地の昔の地名の名残である七久保の名が含まれている(写真6)。

今泉小学校の横を雛壇の第3・4段に相当するところまで登り、さらに進むと児童向け運動公園である今泉公園がある(写真7)。ここが七久保谷戸の最深部であると思われる。

柳谷戸 調査記録 平成26年4月17日

七久保谷戸の最奥部にある今泉公園から六国見山の山裾を左に進む。六国見山の山裾は急斜面となっており、宅地造成のときに、山を大分削ったのではないかと思われる。現在の住所表示で今泉台1丁目21番地付近の四辻から南方向を眺めると、柳谷戸の最深部の跡と思われる山壁が見えた(写真8)。この山壁の上には、今泉台3丁目の住宅が見える。

四辻から北に向かい、雛壇状に宅地造成された最上段最前列のながめの良い道を東に進む。前方に宅地造成から免れた住宅地のなかの丘陵が見える。雛壇最前列の道の東端まで来たところで、二つ下の雛壇に通じる階段(通称「みみず」階段)を下りる。階段の途中の雛壇に相当するところに、柳谷戸の名を冠した「柳谷戸つばめ公園」がある(写真9)。階段を降り、住宅地を進む。さらに進むと宅地造成前からあったと思われる旧道がある。この旧道を砂押川傍にある中町バス停まで下りる。途中道祖神と鳥居がある。ただし、道祖神はどこからか移設されたものらしい。バス停近くまで下りると、まだ農地がのこされている(写真10)。振り返ると、宅地造成から免れた丘陵の間に小さい谷戸があり、梅林や墓地などになっている(写真11)。

中町バス停から一旦福泉方向に100mあまり戻る。柳谷戸方面を見ると高く埋められてしまっているため、単なる高台に見える(写真12)。しかし、砂押川には柳谷戸の名残である小さな川が流れ込んでいる(写真13,14)。この川を、水源まで遡行する。この川は砂押川の沿岸部分のみの流れであるため、長さは数十メートルしかないが、水量もそれなりにあり、柳谷戸跡の地下水が流れ出しているものと思われる。

柳谷戸(続) 調査記録 平成26年6月19日

今泉台方面の調査の帰路の途中、再度柳谷戸に相当する地域を歩く。

地蔵前バス停から今泉台1丁目ロータリー、柳谷戸の名称の名残である柳谷戸ひよこ公園を経て、通称みみず階段の上に至る。今泉台1丁目ロータリーには宅地造成前から

ある送電線鉄塔があり、宅地造成前後の位置と高度を判断する基準とすることができる。みみず階段上から今泉台1丁目緑地真中にある高台に登る。この高台と今泉台3丁目の間は尾根で続いていたが、宅地造成で切り開かれ、今泉台1丁目の住宅地となっている。この高台は電波中継の必須地であろうか携帯各社の基地のアンテナが林立している。

福泉西部

谷戸及び谷戸であったところがないので調査の対象外とした。

写真1

今泉橋から七久保谷戸排水口
(平成26年7月8日撮影)



写真2

七久保谷戸の流れの名残
右は特別養護老人ホーム
(平成26年4月17日撮影)



写真 3

かさ上げした今泉小学校北
端

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 4

坂道から左低地を見下ろす

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 5

雑壇の上から今泉小学校を
見下ろす

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 6

旧名七久保の名が記された
電柱

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 7

今泉公園

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 8

柳谷戸最奥部に相当する位
置

正面の丘陵の上は今泉台 3
丁目住宅

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 9

雛壇最上段からひとつ下の
柳谷戸つばめ公園を見下ろす

(平成 26 年 4 月 17 日)



写真 10

坂の途中から砂押川左岸方
面

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 11

取り残された丘陵(今泉台 1
号緑地)にある小さな谷戸

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



写真 12

埋められた柳谷戸の上に建
つ住宅

(平成 26 年 4 月 17 日) 撮影



写真 13

柳谷戸の川の流れ

(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



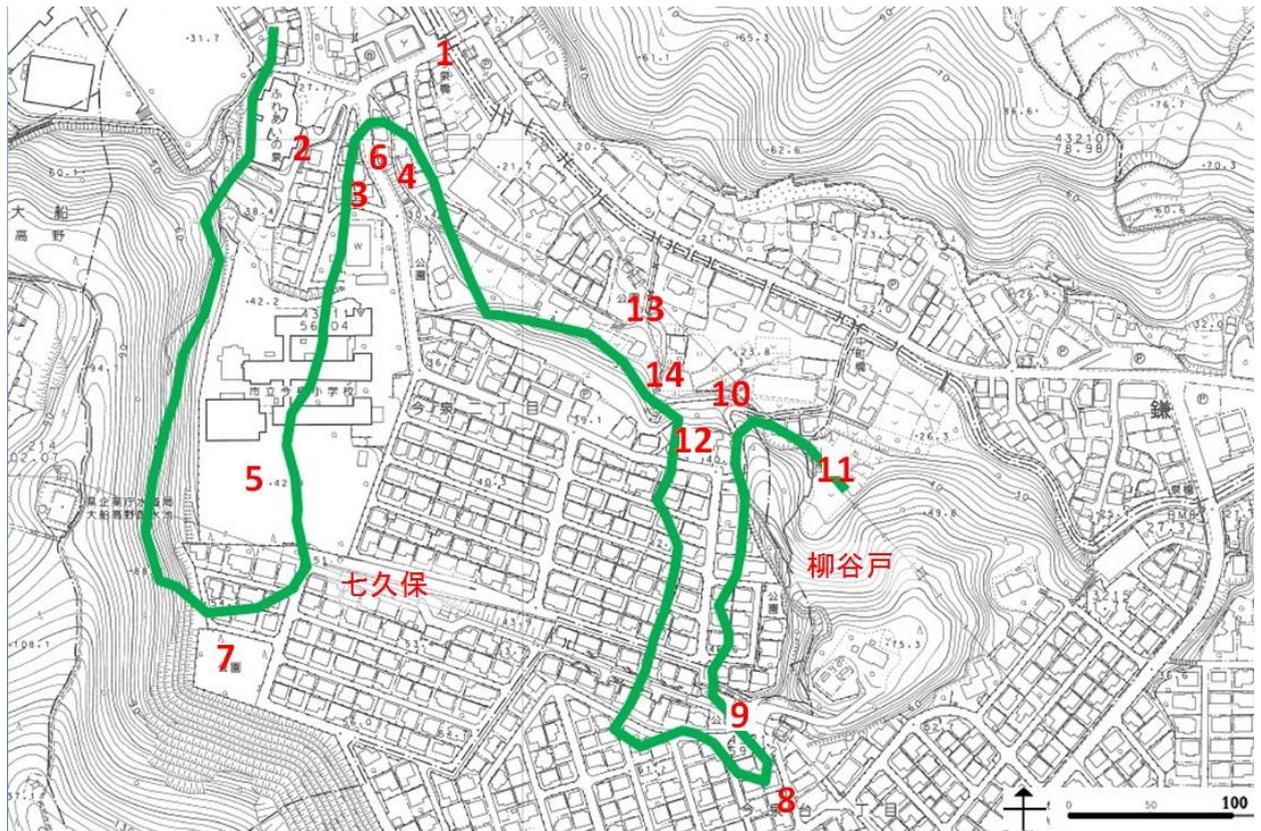
写真 14

柳谷戸の川の上流

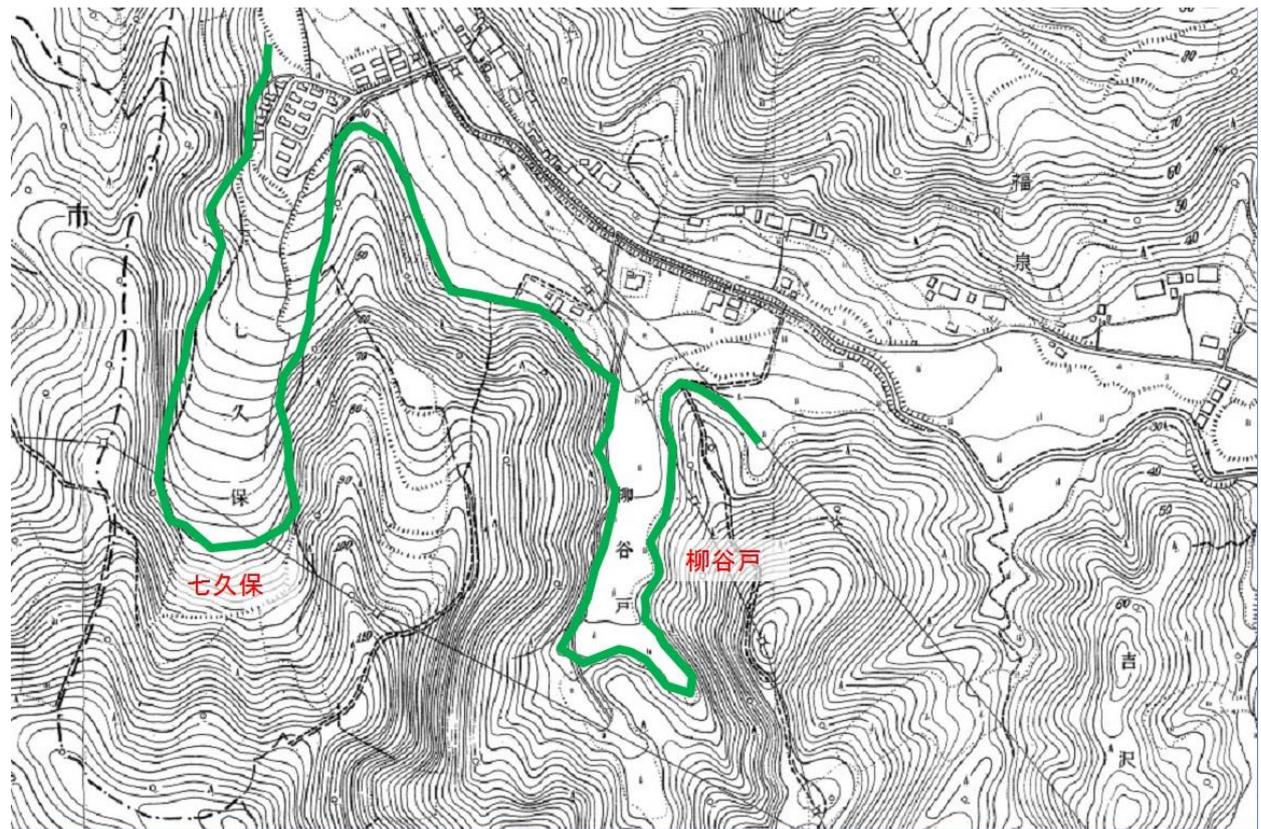
(平成 26 年 4 月 17 日撮影)



空白ページ



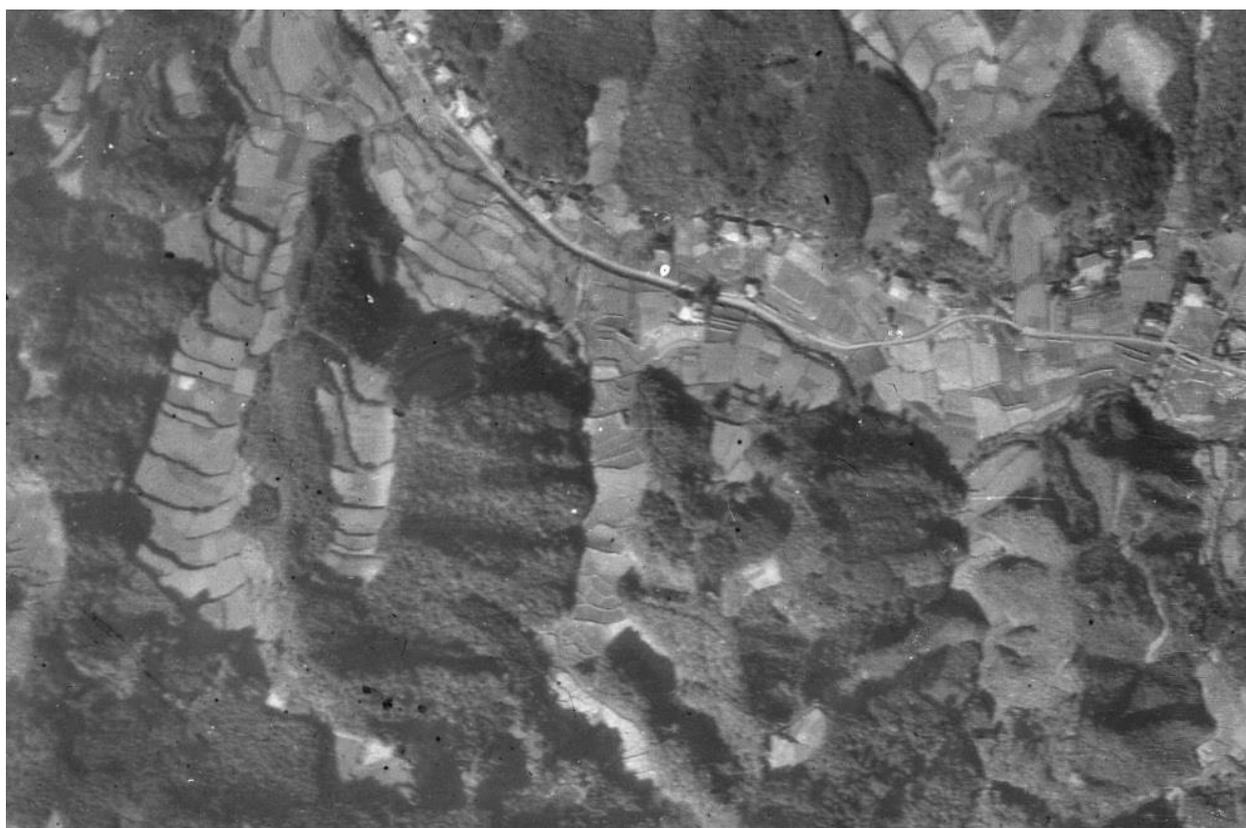
七久保・柳谷戸 平成 26 年(鎌倉市都市計画基本図)



七久保・柳谷戸 昭和 29 年 12 月測図(空中写真測量)



七久保・柳谷戸 平成 26 年 9 月 29 日



七久保・柳谷戸 昭和 22 年 11 月 5 日撮影